

令和8年度入学試験 課題論文「出題意図」 (入試情報公開用)

食農学類 総合型選抜

地域社会貢献枠：

食料、農業及び農村に関する施策、我が国の食料供給に関する目標とその現状に関する資料を提示し、食料、農業及び農村の我が国の考え方について資料から読み取り説明させるとともに、食料供給に関する目標とその現状を理解したうえで講ずべき施策について自身の経験と関連付けた論述を求めることで、資料の内容を正確に読み取る力（理解力）、資料を手掛かりに課題を検討する力（思考力）、論述する力（表現力）を総合的に評価する。

実践教育経験枠：

花の購入に関する資料を提示し、花の購入率の傾向と特徴を購入率の推移および性別・年齢別の購入率から説明させ、花の購入率の向上のために行うべき取組について自身の経験と関連づけた論述を求めることで、資料の内容を正確に読み取る力（理解力）、体験と関連づけて課題を考察する力（思考力）、論述する力（表現力）を総合的に評価する。

令和8年度

課 題 論 文

農学群食農学類

(総合型選抜)

地域社会貢献枠

時間 90 分

++++++ 注 意 事 項 ++++++

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開けてはならない。
2. この問題冊子は表紙を含め5枚である。印刷の不鮮明な箇所などがある場合には、監督者に申し出ること。
3. 解答用紙の指定欄に、アルファベットを含む5桁の受験番号を必ず記入すること。
4. 解答はすべて別紙の解答用紙に横書きで記入すること。
5. 解答用紙の評点欄には、何も記入しないこと。
6. 解答用紙は持ち帰らないこと。

地域社会貢献枠

次の資料1を読んで、食料、農業及び農村に関する我が国の考え方について説明しなさい。
また、資料1～5を読んで、我が国の食料供給に関して講ずべき施策について、あなたの考えを論述しなさい。(800字以内)

[資料 1]

食料、農業及び農村に関する施策についての基本的な方針

「我が国の食料供給」は、国内の農業生産の増大を基本とし、これと併せて、国内生産だけでは賄えない食料の安定的な輸入の確保、凶作や輸入の途絶等の不測の事態に備えた備蓄を図ることにより行われる。

農地が限られた面積しかなく、農業者の急速な減少や高齢化が見込まれることに加え、気候変動の農業生産への影響が顕在化している中であっても、農地、人や生産資材等の資源を確保し、それらと、農業生産基盤の整備・保全、先端技術の開発・普及とが効率的に組み合わせられた農業構造へ転換し、土地生産性及び労働生産性を向上させることにより、食料自給力を確保する。この農業の生産性向上と農産物の付加価値向上を通じ、農業経営の収益力を高め、農業者の所得の確保・向上を図ることにより、農業の持続的発展を図る。

また、国内の人口減少に伴う食料需要の減少が見込まれる中、国内への食料供給に加え、今後成長する海外の食市場を取り込み、農林水産物・食品の「輸出の促進」等により、海外から稼ぐ力を強化することで、農業生産の基盤、食品産業の事業基盤等の食料供給能力を確保する。

国として食料の総量を確保するだけでなく、「国民一人一人の食料安全保障」を確保するためには農業者、食品事業者、消費者等、食料の生産から消費に至る各段階の関係者が有機的に連携した「持続的な食料システム」を構築して、食料を生産・加工し、消費者まで送り届ける必要があり、食料システムの中で重要な役割を担っている食品産業の持続的発展を図るとともに、食料の持続的な供給に要する費用が考慮された合理的な価格形成を推進する。

食料システムを持続可能なものとするために、農業生産を含む食料供給に携わる事業者の活動の各段階において環境に与える負の側面にも着目し、食料システムで環境への負荷の低減を図り、「環境との調和」を図る。農村で農業生産活動が適切に行われることにより発揮される「多面的機能」は、国民生活と国民経済の安定に重要な役割を担っており、環境への負荷低減を図りつつ、適切かつ十分に発揮する。

農村は、農業が営まれている場であるだけでなく、農業者を含めた地域住民の生活の場でもあり、農業の持続的な発展の基盤たる役割を果たしている。農村人口の減少下においても、地域社会が維持され、農業の有する食料その他の農産物の供給機能及び多面的機能が発揮されるよう、農業生産基盤の整備・保全、農地の保全に資する共同活動の促進、農村との関わりを持つ者の増加に資する所得の向上や雇用の創出を図る経済面の取組、生活利便性を確保する生活面の取組等の地域政策を推進し、「農村の振興」を図る。

こうした地域政策を、産業政策との車の両輪として実施していくことが重要である。

出典：農林水産省『食料・農業・農村基本計画 令和7年4月』の一部を抜粋。

[資料2]

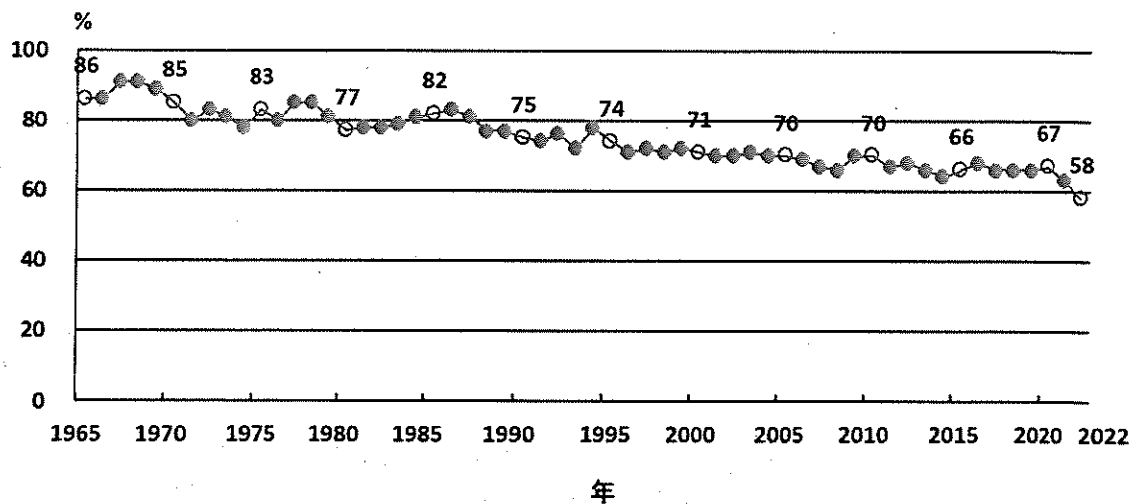
我が国の食料供給 目標 (2030 年度)

生産額ベースの総合食料自給率：69%
生産コストの低減：米（15ha 以上の経営体）9,500 円/60 kg
農地面積：412 万 ha
食料の備蓄の確保（米・麦）
農産物の付加価値の向上
肥料の国内資源利用拡大と化学肥料原料の備蓄の確保

出典：農林水産省『食料・農業・農村基本計画 令和7年4月』の一部を抜粋

[資料3]

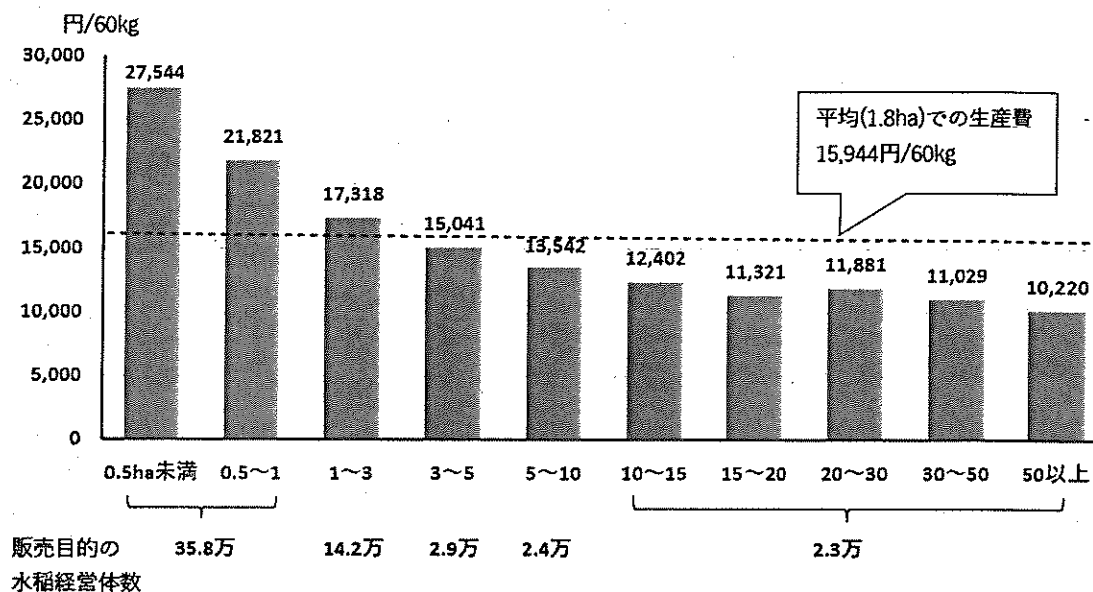
我が国の生産額ベースの総合食料自給率の推移



出典 農林水産省『食料需給表』を基に作成。

[資料4]

米作付規模（農地面積）別の玄米 60kg 当たりにかかる生産費（2023 年度）

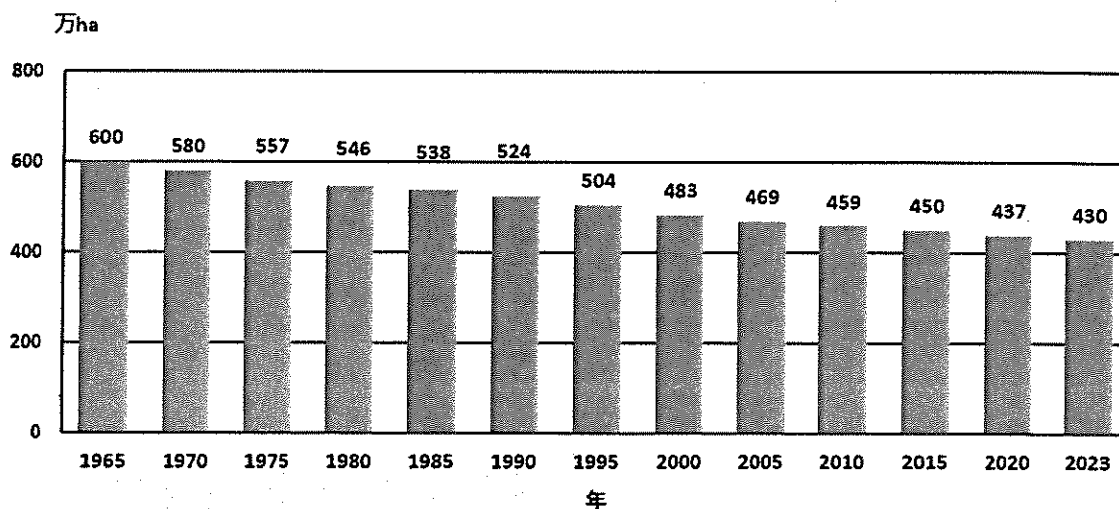


※生産費：労働費、肥料費、農業薬剤費、農機具費など

出典 農林水産省『農産物生産費統計（個別経体）』『農業構造動態調査』を基に作成。

[資料5]

我が国の農地面積の推移



出典 農林水産省『耕地及び作付面積統計』を基に作成。

問題訂正

課題論文 実践教育経験卒

[資料 2]

(表下の説明に追加)

- ・同一年齢で同一性の各項目の合計が100%である。
- ・なお、各項目はそれぞれ四捨五入しているため、合計しても100%とならない場合がある。

[資料 4]

(表下の説明に追加)

- ・複数回答あり

令和8年度

課 題 論 文

農学群食農学類

(総合型選抜)

実践教育経験枠

時間 90 分

+++++++ 注 意 事 項 +++++++

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開けてはならない。
2. この問題冊子は表紙を含め5枚である。印刷の不鮮明な箇所などがある場合には、監督者に申し出ること。
3. 解答用紙の指定欄に、アルファベットを含む5桁の受験番号を必ず記入すること。
4. 解答はすべて別紙の解答用紙に横書きで記入すること。
5. 解答用紙の評点欄には、何も記入しないこと。
6. 解答用紙は持ち帰らないこと。

実践教育経験枠

花の購入に関する先生と生徒の会話と資料から、以下の①と②の問いに答えなさい。

注意 解答は解答用紙の枠内（全体で 800 字以内）に記入すること。また解答は「①…」
「②…」のように記入し、問いとの関係が区別できるようにすること。

① 資料 1 と 2 を読んで、花の購入率の傾向と特徴について説明しなさい。

② 資料 1 から 4 を読んで、花の購入率を高めるために花産業従事者が行うべき取り組みを、あなた自身の経験と関連づけて論じなさい。

※ ここで花産業従事者とは、花の生産、流通、販売または新品種の育成の事業に従事する者のことをいう。

先生：あなたは花が好きですか？

生徒：はい。好きです。

先生：最近 1 年間に花を買ったことはあるかしら？

生徒：はい。先週も花屋さんでカーネーションの花束を買いました。

先生：それはよいですね。資料 1 を見てごらん。2024 年の調査結果では、最近 1 年間に花を購入した人の割合は 36% なんですよ。

生徒：このような調査が行われているのですね。

先生：そうです。資料 2 を見てごらん。年齢別や性別でも調べられています。

生徒：資料 2 から年齢別・性別でも違いがあることがわかります。

先生：あなたは花を買うときに何を重視しているのかしら？

生徒：わたしはプレゼントする相手の好みを重視します。一昨日は祖母の誕生日だったので祖母が好きそうな花を選びました。

先生：おばあさまは喜ばれたことでしょう。

生徒：はい。たいへん喜んでいました。

先生：資料 3 を見てごらん。プレゼント用と自宅用それぞれで購入するときに重視する点を調べた結果です。

生徒：これはとても興味深い資料です。

先生：一方、花の購入をためらう理由も調べられています。資料 4 を見てごらん。

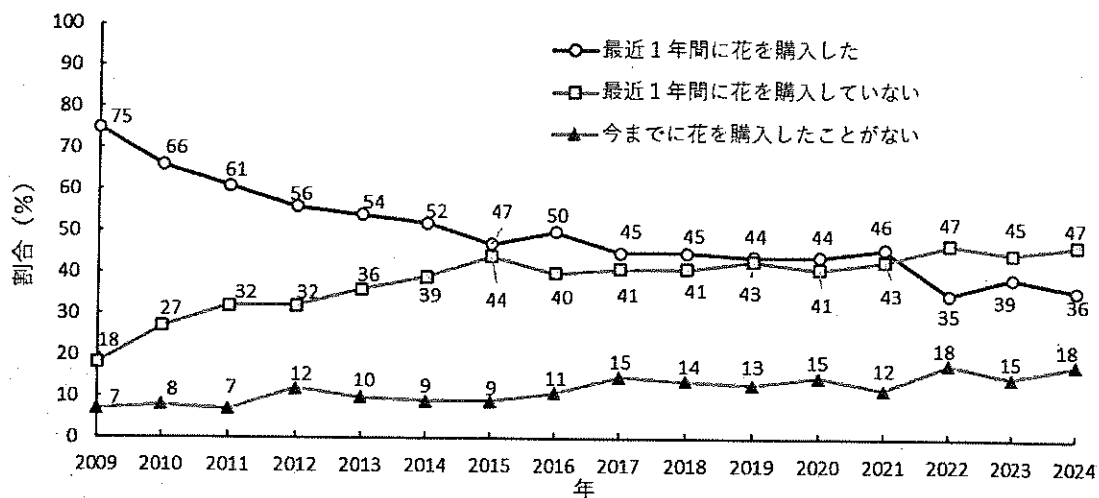
生徒：これも面白い結果ですね。

先生：花の生産、流通、販売または新品種の育成の事業に従事する人たちは、花の購入率が高くなることを望んでいます。どうしたら花の購入率を高めることができるのか考えてみようか。

生徒：はい。考えてみます。

[資料 1]

花の購入率の推移（2009 年から 2024 年まで）



回答数：2021 年まで 520 人，2022 年から 600 人

※ 各項目はそれぞれ四捨五入しているため，合計しても 100%とまらない場合がある。

出典：農林水産省『花の消費選好 2024 年報告書』を基に作成。

[資料 2]

性別・年齢別の花購入率（2024 年調査結果）

年齢	最近1年間に花を購入していない人の割合 (%)		最近1年間に花を購入した人の割合 (%)		今まで花を購入したことがない人の割合 (%)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
20 代	24	24	34	57	42	19
30 代	32	36	48	47	19	18
40 代	29	44	59	46	13	10
50 代	38	57	46	37	16	6

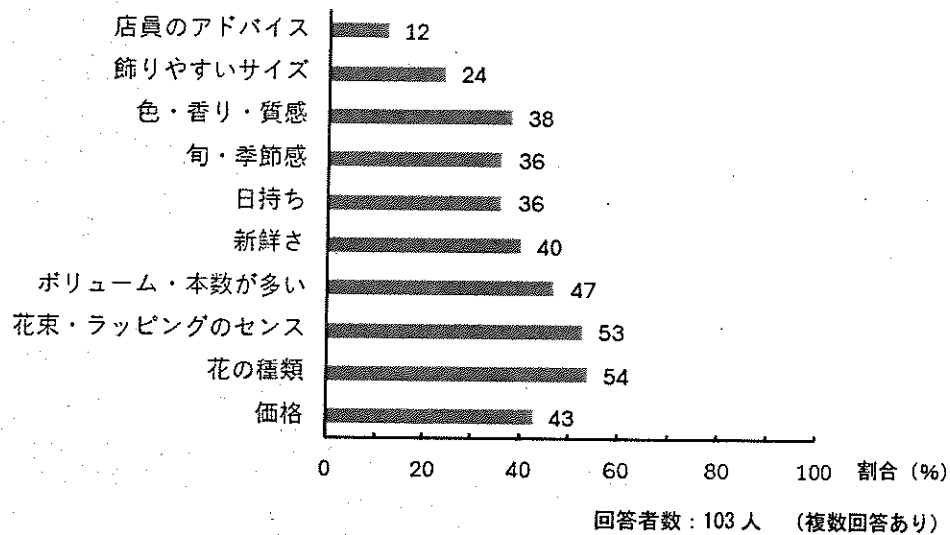
回答数：500 人，うち男性 250 人，女性 250 人

出典：農林水産省『花の消費選好 2024 年報告書』を基に作成。

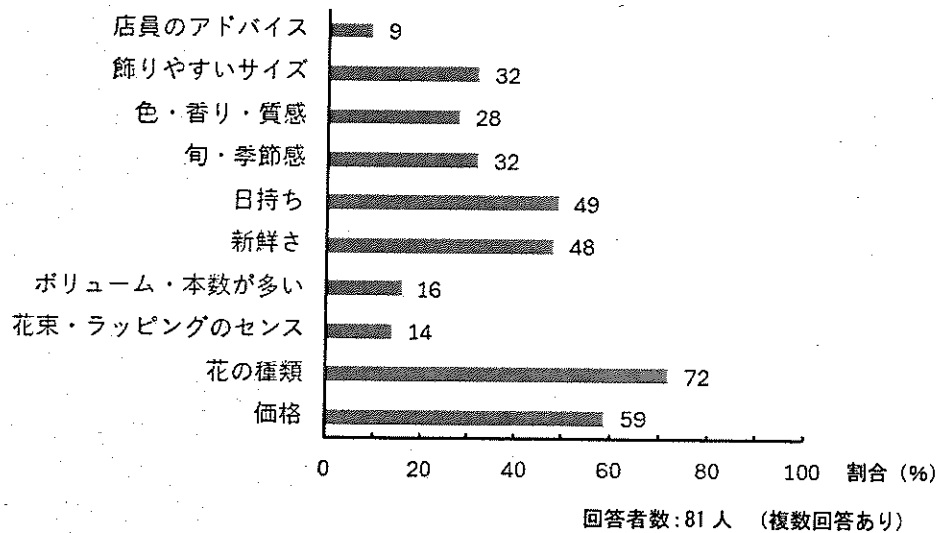
[資料3]

最近1年間に花を購入した人が購入時に重視していることとその割合(2024年)

プレゼント用



自宅用



出典: 農林水産省『花の消費選好 2024 年報告書』を基に作成。

[資料4]

花の購入をためらう理由とその回答割合（2024 年）

男性			女性		
順位	理由	割合（％）	順位	理由	割合（％）
1	すぐ枯れてしまう	25.0	1	種類を知らない	25.0
2	価格が高い	21.4	2	選び方がわからない	21.4
3	手入れが面倒	17.5	3	すぐ枯れる	17.5

有効回答数：21,702 人

出典：農林水産省『花や緑の効用・家庭とオフィスへの導入状況に関する調査 調査報告書』から作成。

令和8年4月23日

令和8年度福島大学食農学類総合型選抜および
人間発達文化学類学校推薦型選抜Ⅱにおける
出典についての記載ミスについて

福島大学

令和7年10月25日（土）に実施しました令和8年度食農学類学校総合型選抜の課題論文資料において、出典についての記載ミスがあることが判明しました。

令和8年1月21日（水）に実施しました令和8年度人間発達文化学類学校推薦型選抜Ⅱ教育実践コースの面接資料において、出典についての記載ミスがあることが判明しました。詳細は以下のとおりです。

この事実を厳粛に受止め、試験問題の作成・点検を、なお一層、入念に行い再発防止に努めていく所存です。

記

1. 記載ミスが生じた選抜区分，対象枠，試験科目

食農学類

- （1）選抜区分 総合型選抜 第2次選抜
- （2）対象コース 地域社会貢献枠，実践教育経験枠
- （3）試験科目名 課題論文

人間発達文化学類

- （1）選抜区分 学校推薦型選抜Ⅱ
- （2）対象コース 教育実践コース
- （3）試験科目名 面接

2. 記載ミスの内容

食農学類

課題論文資料にある出典の記載にミスがあった。

- （1）使用資料「米作付規模（農地面積）別の玄米 60kg 当たりにかかる生産費」の出典
誤：『農産物生産費統計（個別経体）』『農業構造動態調査』
正：『米をめぐる状況について』
- （2）使用資料「花の消費選好 2024 年報告書」の出典
誤：農林水産省
正：国産花き生産流通強化推進協議会

人間発達文化学類

面接資料にある出典の出版社名の記載にミスがあった。

誤：ちくま新書

正：岩波新書

3. 記載ミス発見の経緯

令和8年4月14日、本学入試課職員により出典記録と問題（資料）の突合時に発見された。

4. 受験者への周知について

出典の記述内容に誤りがあったことを本サイトの発表をもって周知する。

5. 今後の対応策

出題者以外の複数の教員が参加して、出典を含めた仔細な点検を行うことを徹底する。

【本件についての問い合わせ先】

福島大学入試課 024-548-8064